



昭和11年(1936) 新文展鑑査展 151.5cm×151.5cm 絹本彩色、額装 豊田市美術館蔵

「海の微風」山本 丘人

小金井の自宅の庭に、新婚旅行で訪れた場所を組み合わせた風景の中に立っている若い女性は妻の美代さん。

昭和11年(1936)6月、帝展落選の続いた丘人は下谷区上野桜木町(現・東京都台東区)から小金井村貫井(現・小金井市貫井)へ転居します。

「絵は人なり」という強い信念を持った作家の内面表現が形になったのはじめての作品。晩年、大磯へ引っ越した理由は空想の中で描いた垣根によく似た垣根がそこにあったからだというエピソードが残っています。新婚旅行で訪れた場所は熱海、伊豆真鶴など諸説ありますが、思い出を題材に新天地で描いた「海の微風」は日本画家としてデパーチャー的作品となりました。

生誕120年 日本画家 山本丘人展を 振り返って

加藤栄三・東一記念美術館 館長 山本 真一

はじめに

40メートルという限られた展示スペース。日本画新時代の体現に挑んだ山本丘人の画業を紹介するには狭すぎる壁面の前で、何をテーマにして展覧会を企画しているのか、まともでない日々が続きました。

これまで山本丘人の画業を紹介してきた会場は、財団法人そごう美術館(1987年開催)、東京国立近代美術館(1994年開催)などの規模の大きい美術館で、箱根・芦ノ湖 成川美術館においては開館1周年記念展として(1989年開催)、平塚市美術館では開館15周年の記念展に山本丘人展を開催してきました。いずれの展覧会場においても紹介された作品数は70~80点にもおよび、日本画壇を牽引してきた重鎮を紹介するに恥じない規模の展覧会でした。この実績を踏まえて、地方の小さな美術館でどのような形で丘人を紹介したらいいのか悩みました。

加藤栄三・東一記念美術館の抱える問題点の見直し

開館当初から加藤栄三・東一記念美術館の第1展示室では栄三・東一の作品をテーマ別に展示し、第2展示室では岐阜で活躍する作家や美術団体を紹介する企画展をメインに事業を行ってきました。地域密着型の美術館として地元作家を紹介するメリットを活かし来館者数を確保してきた半面、限られた出品者と入館者のためだけのギャラリー施設としての色彩が濃い現実がありました。近代日本画を代表する作家で文化勲章受章作家でもある山本丘人の回顧展は美術館の運営方針を大きく変えるために、どうしても開催したい企画展でした。

公立の美術館として来館者のために良質の展覧会を提供すること。それが美術館の在るべき姿だと考えてきました。折しも岐阜を舞台にした大河ドラマが放映される2020年が山本丘人の生誕120年になる年と重なったことで、山本丘人展は、その思いと共に開催に

向け一気に加速していきました。

課題であったテーマについてはコレクターや美術評論家より在りし日の丘人のお話をうかがうことができ、ご遺族には大磯で過ごされた時の思い出話を交えながら自宅跡を見せていただく機会にも恵まれ、知らなかった丘人のやさしさや人間的な魅力に触れさせていただきました。

この時、生誕120年展では作品創りに迷いながらも苦しい初期の作品と、絵にする為の作意を捨てた最晩年の作品を見比べながら丘人の心の動きを紹介する展示にしようと考えました。

丘人が求めていたもの

「もっと自由に好きな絵を描きたい。今はとても自由に絵を描くことができない。生活があるからね。」現実と虚構が入り混じる雄渾な画面が人気を博した丘人でしたが、このセリフからわかるようにその呪縛から己を解き放つために苦しんでいました。晩年、丘人の作風は雄渾な画面から大和絵を学んだ作家らしい情緒的で高雅な画面に戻っていきます。

それは日本画の将来に向けて、作家として、求道者としてその精神を具現化していくという課題に取り組み続けた結果、丘人がたどり着いた世界だったと思います。



上州三國街道(1941)

おわりに

近代日本画壇を代表する作家の展覧会が地方の小さな美術館で開催できたのは、東京美術学校で丘人に師事し、後に国宝・凍雲篩雪図をはじめ、多くの名画を模写した田中穰氏の存在とご遺族で山本丘人記念館館長の山本由美子様のお蔭です。この場を借りてお二人に深く感謝申し上げます。

加藤栄三・東一記念美術館

加藤栄三・東一 岐阜を描く

2020.6.9(火)~9.13(日)

岐阜市美殿町で漆器商を営む商家に生まれた栄三は、一時、家業を手伝っていましたが商いが肌に合わず煩悶とする日々を過ごしていました。大正13年(1924)11月、横山大観、下村観山、川合玉堂、竹内栖鳳らで結成された淡交会の第1回展が大阪のデパートで開催され、栄三はそこで竹内栖鳳が発表した「斑猫」を見て、密かに画家になる決意をしたといいます。父親は猛反対でしたが、母の理解を得て東京美術学校(現東京芸大)への進学を決めました。10歳年下の弟:東一も画家を志し、家出同然で市川に住む栄三を頼って上京し、東京美術学校へ進学します。

二人は美術学校卒業後、岐阜には帰らず、関東に居をかまえ日展を舞台に作品を発表していきます。しかし、多感な少年期を過ごした故郷への思いは強く、しばしば帰郷しては岐阜の風物をスケッチブックに描き留めていました。

その思いは、栄三が昭和43年(1968)12月下旬、山田申吾、東一らと共にインド・ネパールへ旅行に出かけたとき、ネパールのカトマンズを見て、飛騨高山とよく似た印象を受けたことからもうかがえます。心のどこかに岐阜への思いがあり、これがきっかけで栄三は飛騨高山へ取材に行く決心をします。

帰国後の昭和44年、飛騨高山を訪れ高山祭を取材します。宵祭りの最中にもかかわらず、祭り行列を止めさせてまで熱心にスケッチを繰り返す姿に一行が取材に協力する展開になったといいます。

第2回改組日展において宵祭りを題材に制作した「飛騨」は、外務省買い上げとなりました。

東一は、ある対談で「ふるさとの山や川、私にとっての金華山と長良川、これは私のバック・ボーンと言えるかも知れません。私の心の支えになっていることは事



「飛騨(大下絵)」加藤栄三

実ですね。」「山というのは、心のなかの、ある意味で信仰に近い対象ですね。日本で代表的な山は富士山ですが、私にとって金華山は神みたいな存在といえる。やはり、長良川は私の母なる川であり、金華山は私の父なる山と言える。」と語っています。



「金華山(スケッチ)」加藤東一

本展では、収蔵作品の中から今まであまり公開していない高山祭・長良川の鶺鴒などのスケッチ、大下絵とあわせて岐阜を題材に描いた本画(完成作品)を展示します。

栄三・東一は故郷「岐阜」をこよなく愛し、金華山と長良川、そして鶺鴒の絢爛とした姿と哀感をいつくしみ描いています。本展で紹介する二人の作品から故郷岐阜をこよなく愛した望郷の念を読み取っていただければ幸いです。

岐阜市歴史博物館における 新型コロナウイルス感染症 拡大防止対策の取組み

【はじめに】

岐阜市では新型コロナウイルス感染症の複数クラスターの発生等により極めて深刻な状況となり、令和2年4月6日の岐阜市第13回新型コロナウイルス感染症対策本部会議における岐阜市新型コロナウイルス感染症対策総合アクションプランの見直しにより、当館は同日から臨時休館となりました。4月10日には岐阜市非常事態宣言が発表されましたが、5月16日に解除され、それに伴い5月22日から再開しております。再開にあたり、ご来館者の皆様に安心してご観覧いただけるよう、様々な方針やガイドラインを参考にして、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に取り組んでいます。

【当館の取組み】

①展示室入口

待機列ができる展示室入口では密集対策として、来館者同士の間隔をあけて整列していただくようにフロアマーカーを設置しました。会話が必要となる観覧券もぎりや総合受付では、密接対策としてアクリル製の飛沫防止対策用パネルを設置しました。



展示室入口

博物館パンフレット等の配布物を今までは手渡しでお渡ししているものもありましたが、一律据え置き方式で配布しています。また、壁や展示ケースには触れない、観覧時にも隣の方と2メートルの間隔をあけるなど新しい生活様式にあわせた注意事項を掲示しております。

②展示室内

展示室内は特に密集状態になりやすいため、社会的距離（ソーシャルディスタンス）の確保がしやすいよう努めています。

特定の作品の前に大勢の人が滞留しないよう、誘導線に他の来館者との間隔の目安となるフロアマーカーを設置しました。目安を意識しながらご観覧いただけたらと思います。

展示室内は観覧人数の制限を行い、1階特別展示室は50人までを上限としています。上限を超える場合は、整理札を配布し、講堂でお待ちいただきます。講堂は、間隔をあけて座っていただけるよう席数を187席から85席へ、約半数に減らしています。

体験コーナーは子どもに人気のあるコーナーですが、体験用の資料に直接手で触れるため、感染リスクが高く、残念ではありますが当面の間休止しております。



講堂

③ラウンジ

観覧中や観覧後に休憩していただけるラウンジでは密集対策として椅子の数を18席から8席へ数を減らし、椅子同士が向き合わないようレイアウトを変更いたしました。

給茶機コーナーは当面の間休止しています。



ラウンジ

④その他

階段の手すり、エレベーターのボタンなどの共用部分の徹底した清掃、消毒を行っています。

博物館入口及び館内にアルコール消毒液を、トイレには除菌消毒用液体石鹸、ペーパータオル、便座除菌クリーナーを設置していますので、ご利用ください。

図書室の利用は感染リスクが高いことから休止しています。ミュージアムショップでは商品の見本を撤去し、販売品は直接手が触れないように配置しています。

職員はマスク及び手袋などを着用しておりますが、ご理解ください。

【来館者の皆様へのご協力のお願い】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来館者の皆様にもご協力をお願いしています。

- ・館内の密集緩和のため少人数で利用する
- ・マスクの持参及び着用(咳エチケットの順守)
- ・せき、くしゃみ、発熱などの風邪症状や体調不良のある方は、来館を控える
- ・屋外チケット販売窓口前で検温をうける
- ・入館の際に入館者カードへの記入する(氏名、電話番号、住所などの記入)
- ・感染予防のための手洗いの徹底
- ・設置してあるアルコール消毒液による手指の消毒の実施
- ・観覧時にできるだけ隣の方と2メートル(少なくとも1メートル)の間隔を開ける
- ・壁や展示ケースには触れない
- ・展示室内で大声での会話はしない

入館者カード

来場日	令和2年 月 日 時 分
代表者氏名	
住所	都道府県 市・区・町・村
電話番号	
入場者数	

該当するものに✓を記入してください。

<input type="checkbox"/>	私と同伴者の体温は、37.5度以上ではない。
<input type="checkbox"/>	体調は良好であり、同伴者にも体調がすぐれていない者はいない。
<input type="checkbox"/>	私と同伴者は、風邪のような症状ではない。
<input type="checkbox"/>	私と同伴者は、過去2週間以内に発熱や感冒症状で受診や服薬等を行っていない
<input type="checkbox"/>	私と同伴者は、咳エチケットを順守し、頻繁な手洗いを心掛けている。

上記項目すべてに✓が付かない方は、スタッフにお声がけください。

※ご記入頂きました個人情報につきましては、新型コロナウイルス感染症対策に使用し、それ以外の用途では使用しません。

【イベント】

岐阜市が実施するイベントについては新型コロナウイルス感染症対策を優先的に実施していただくため、少なくとも9月末まで原則中止する方針となりました。それに伴い、当館でも講座・講演会等の中止、または実施日の変更、および延期をしております。詳細はホームページでご確認ください。

また7月10日(金)～8月30日(日)に予定しておりました特別展「用の美-武家貴族の美意識」は開催を中止いたします。

皆様にはご迷惑やご不便をおかけいたしますが、ご協力とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

【参考】

- ・「コロナ社会を生き抜く行動指針」岐阜県新型コロナウイルス感染症対策本部5月15日策定
- ・「新型コロナウイルスのある生活のための岐阜市総合対策」岐阜市5月16日策定
- ・「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」公益財団法人日本博物館協会 5月14日策定

※6月末時点での対応です。今後の状況によって変更となる場合もあります。

戦時下の接客向上運動

昭和17年ありがとう運動の展開(前篇)

社本沙也香

【凡例】

・引用中の単語および固有名詞の漢字は、当用漢字に置き換え、仮名遣いは歴史的仮名遣いのままとした。

・〔 〕:筆者注

・本稿中の写真はすべて近藤龍夫氏撮影。

はじめに

平成30年(2018)度、岐阜市を拠点に二科会会員として活躍した写真家・近藤龍夫氏(1916~92)が撮影した写真約2000点が、当館に寄贈された。近藤氏は、昭和13年(1938)に岐阜市徹明町に「写真技術の店」を開業し、終戦間近に川崎航空機に徴用されるまで、戦時下の岐阜の町の様子を撮影している。今回はその中から、昭和戦中期に岐阜中心地で行われた商業団体の活動を写した複数の写真に注目してみたい。

【写真1】は、昭和17年8月に柳ヶ瀬交差点から西の方角を望んだ光景である。左の建物は戦前岐阜で唯一の百貨店・丸物で、中央の横断幕が目を引く。この「ありがとう運動」とは何だろうか。

時代背景

昭和12年7月柳条湖事件により日中戦争がはじまると、岐阜の地元部隊である陸軍第六十八聯隊が出兵し(同年8月の上海上陸作戦に参加)、多くの犠牲者が出た。戦場に赴く兵士以外の市民も、岐阜駅における出征兵士の見送り、戦傷兵や遺骨の出迎え、戦争祝賀などに参加し、児童生徒も動員されるようになっていた。

また戦争が長期化する中で生活物資が不足し、岐阜市では昭和15年夏には砂糖や米が配給制に移行している。繊維中心であった市の産業構造も変化し、軍需工業が振興される一方で、昭和17年初めには中小企業振興を担った市商工課が本来の任務を失い、物資の配給を専らとする事態になっていた。

実施場所と期間

そうした社会情勢の中実施されたのが、商業者の接客態度向上運動「ありがとう運動」である。実施期間は、【写真2】に見える通り昭和17年8月8日から14日までの1週間。主催は商業報国会岐阜支部と岐阜警察署である。また各業種の組合も呼応し、初日には「経済常会」が開催されたと当時の新聞に報じられている(1)。

この運動は岐阜独自のものではなく、最初の取り組みは、同年7月8日から1週間実施された東京府(当時)の「ありがたう運動」(2)である。その後、全国各地で実施された(3)。東京・岐阜の日程初日が8日に設定されたのは、大詔奉戴日(4)に合わせたためである。



【写真1】

【写真2】

《注》 ※主要参考文献は、後篇で紹介する。

(1)『岐阜合同新聞』昭和17年8月8日(土)2面

(2)東京府における運動の名称は『「ありがたう運動」実施報告書第1回』(商報資料第5輯、商業報国会東京府本部、昭和17年8月)の表記に従い「ありがたう運動」と統一した。

(3)『市政週報』(185号、昭和17年11月)によれば、7月に東京で開催されたのち11月までに、横浜市・名古屋市では親切運動、大阪市・京都市では「ありがたう運動」、神戸市では「物恩感謝運動」が実施された。本稿では『市政週報』では言及されていない岐阜市の例を取り上げており、こうした例は多いと考えられる。

(4)太平洋戦争開戦の詔勅が出された昭和16年12月8日を記念する日。翌17年1月8日から毎月8日に設定された。

なお、東京府と岐阜市以外の日程は未確認であるが、今後の参考資料として東京府における実施内容をまとめた『「ありがたう運動」実施報告書 第1回』(前出)に「実施第一日ハ大詔奉戴日ニシテ」と指定があるため、同様と考えられる。

館蔵資料紹介



「水之都」 速水 御舟

- ・号数 20号変(49.5cm×68.7cm)
- ・制作年 昭和6年(1931)
- ・形態 紙本着色、額装
- ・材料 麻紙、岩絵具

近代日本画壇の中で伝統を継承しながらも革新的な作風を試みた日本画家:速水御舟は岐阜ではあまり知られていませんが、大正の初め原三溪の援助を受け、京都南禅寺、永観堂で絵の勉強に打ち込み、後に日本美術院(院展)を舞台に活躍し、《炎舞》(重要文化財)、《名樹散椿》などの名作を描き40歳で早世した近代日本画壇を代表する日本画家です。

「水之都」は昭和5年、イタリア政府主催の日本美術展に参加するため横山大観らと共に美術使節としてローマを訪れ、イタリアをはじめスイス、フランス、スペインなどの国を歴訪し、帰国後の昭和6年、旅路のスケッチをもとに開催した「速水御舟滞欧作品展」(日本橋三越)に発表された御舟晩年の名作です。

令和元年度受贈資料

令和元年度は、表記の皆様にご貴重な資料をご寄贈賜りました。厚く御礼申し上げます。

岐阜市歴史博物館(敬称略)

芳名	受贈資料	
高井 智	炊飯器	2点
和田 一孝	鉛筆削り	1点
柳原 功	教育会会員証	2点
	震災二付修繕の由記	1点
	手力雄神社境内図	1点
	ララ物質受領証	1点
	昭和40年電話架設関係資料	2点
土本 正	洗濯罌	1点
大竹 和文	洗濯罌	1点
	下駄	1点
宮嶋 裕司	和傘資料および物品(948件)	一式
遠藤 義人	坊の塚古墳出土品	一式

加藤栄三・東一記念美術館(敬称略)

芳名	受贈資料	
杉山 幹夫	「水之都」速水御舟	1点

歴史博物館の展示

～8月2日(日)
歴博セクション
 ぎふ歴史物語
 伝統の技と美

7月11日(土)
 ～8月2日(日)
歴博セクション
 豊臣VS徳川

8月8日(土)
 ～8月23日(日)
歴博セクション
 れきはく名品展Ⅱ
 -「新しい生活様式」社会に-

上記の日程は、都合により変更する場合がございます。ご了承ください。

分館 加藤栄三・東一 記念美術館の展示

本誌3ページで紹介した以外の
 展覧会は以下のとおりです。

～9月13日(日)
岐阜新文化展がくる

※会期が～7月26日(日)から変更となりました。
 ※7月28日(火)～9月13日(日)に予定していた
 「抒情の旋律 稲元 実 日本画展」は中止となりました。

分室 原三溪 記念室の展示

～8月2日(日)
疫病退散!

8月4日(火)～9月13日(日)
岐阜の鵜飼(予定)

上記の日程は、都合により変更する場合がございます。ご了承ください。

博物館ニュース

小和田哲男名誉館長のご来館

令和2年3月、小和田哲男名誉館長がご来館されました。小和田名誉館長は、平成29年2月より岐阜市歴史博物館の名誉館長に就任いただき、当館の活動に寄与していただいています。令和2年2月からも継続して、名誉館長に就任いただくことになり、来館に際して委嘱状をお渡ししました。

当館の2階では、「麒麟がくる 岐阜 大河ドラマ館」が開催中です。小和田名誉館長はNHK大河ドラマ「麒麟がくる」の時代考証も務められており、大河ドラマ館もご観覧になりました。



小和田名誉館長(左)と早川教育長(右)

利用の御案内

■開館時間 午前9時～午後5時
(歴史博物館、加藤栄三・東一記念美術館の入館は午後4時30分まで)

■休館日 毎週月曜日と祝日の翌日、年末年始(12月28日～1月3日)
(月曜日が祝日の場合はその翌日)
※特別展・企画展開催中は変更することがありますので、ご注意ください。
※令和3年1月11日(月・祝)までは無休です(休室日あり)。

■観覧料 ◎歴史博物館、加藤栄三・東一記念美術館
歴史博物館総合展示、加藤栄三・東一記念美術館 (団体は20人以上)
高校生以上…………… 310円(団体250円) 小中学生…………… 150円(団体90円)
両館共通で観覧される場合
高校生以上…………… 520円(団体410円) 小中学生…………… 260円(団体150円)
※特別展は、その都度料金を定めます。 ※「麒麟がくる 岐阜 大河ドラマ館」は別料金です。
◎下記の方は無料でご観覧いただけますので、①②の方は証明できるものをご提示ください。
①岐阜市在住の70歳以上の人
②身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の交付を受けている人、
および その介護の方1人
③家庭の日(毎月第3日曜日)に入館する中学生以下の方
④③に同伴する家族(高校生以上)の方(特別展を除く)
⑤岐阜市内の小中学生(特別展を除く)
◎原三溪記念室は、無料でご観覧いただけます。

■交通案内 <歴史博物館、加藤栄三・東一記念美術館>
JR岐阜駅・名鉄岐阜駅から岐阜バスにて長良方面行きに乗り、「岐阜公園歴史博物館前」で下車、すぐ東に歴史博物館があります。
岐阜公園内ロープウェイ乗り場すぐ隣に加藤栄三・東一記念美術館があります。

<原三溪記念室>
岐阜バス西部三田洞線 下佐波及びカラフルタウン行きに乗り、「下佐波」で下車、徒歩2分
岐阜バス西部三田洞線 もえぎの里及び高桑行きに乗り、「もえぎの里」で下車、徒歩すぐ

博物館だより No.105 2020.6

編集・発行 岐阜市歴史博物館

(分館) 加藤栄三・東一記念美術館

(分室) 原三溪記念室

〒500-8003 岐阜市大宮町2-18-1

〒500-8003 岐阜市大宮町1-46

〒501-6121 岐阜市柳津町下佐波西1-15 もえぎの里2階

☎058(265)0010

☎058(264)6410

☎058(270)1080